

マシガ

おしおちゃんが 認知症になった



中京区認知症連携の会

序文

認知症の人と家族の思いにつなげるケアを目指して、認知症ケアはいま大きく変わろうとしています。そんななか、このリーフレットを小学校4年生の女の子を主人公にしたマンガの形にしたのは、ひとつには祖母を思う少女の発する「なぜ」「どうして」「どうすればいいのか」という未来志向の質問に答えるやり取りを通して、ともすると社会や周囲の「重荷」と捉えがちな大人たちと対比して、認知症を「適切な援助を必要とする障害」として新たに捉えなおす方向性を示したいと考えたからです。

またひとつには、認知症の人を取り巻く現状とそれに対する取り組みを子どもたちにもわかる形で伝えることで、老人との同居が少なくなったこの年代の子どもたちに認知症を理解するセンスを養うきっかけにしてほしいと強く願うからでもあります。それはかつての、寝食を共にしたおじいちゃんおばあちゃんからの無言のレッスンのように、その後の人間的な成熟に必要なものになるはずです。

そのため、このリーフレットでは医療より個別ケア、とりわけコミュニケーションを通した日常の癒しに重点を置いていますが、両者の連携が重要であることは改めて指摘するまでもありません。京都市認知症ケアを考えるつどい実行委員会、藤本クリニックをはじめ多くの関係者の有形無形の貢献によって完成したこの掌編が様々な年代で支持され、地域や教育の現場での啓発を通じて、認知症理解の入り口で活用されることを願っています。

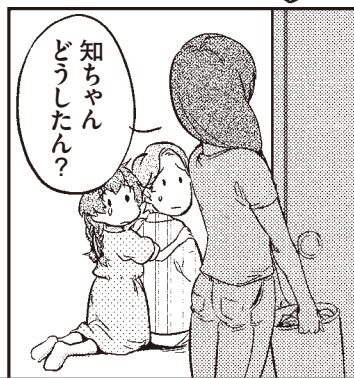
2012年10月13日

中京区認知症連携の会
中京区在宅医療センター
中京東部医師会
中京西部医師会





おばあちゃんが認知症になった





そういえば
お母さん
こないだの
夕食の支度で…

母・美樹 (34)



おばあちゃんが
私の誕生日を
忘れててん…



……ああ
そうやったつけ
なあ……



煮物に味は
もうつけましたよ！
からくなつちやう！

ちよつちよつと
お母さん！！
やめて！！



後日…

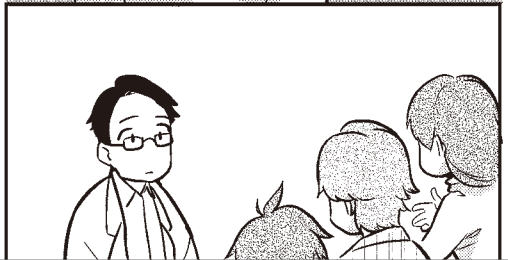
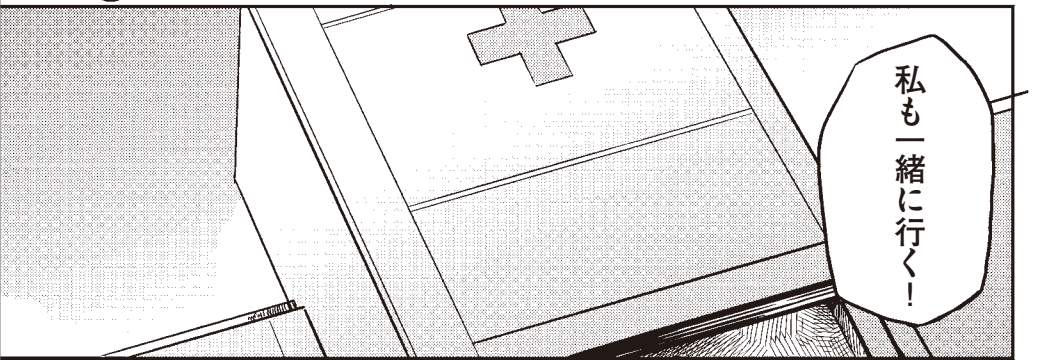
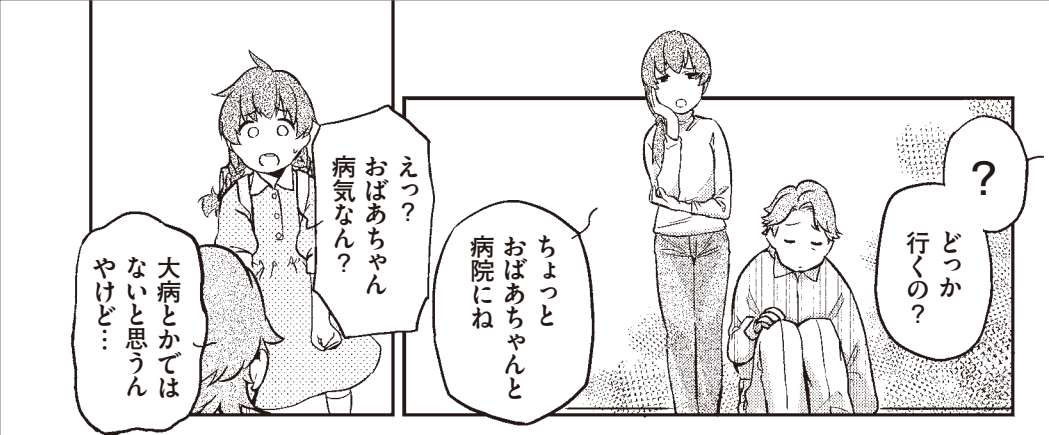
ただいま！

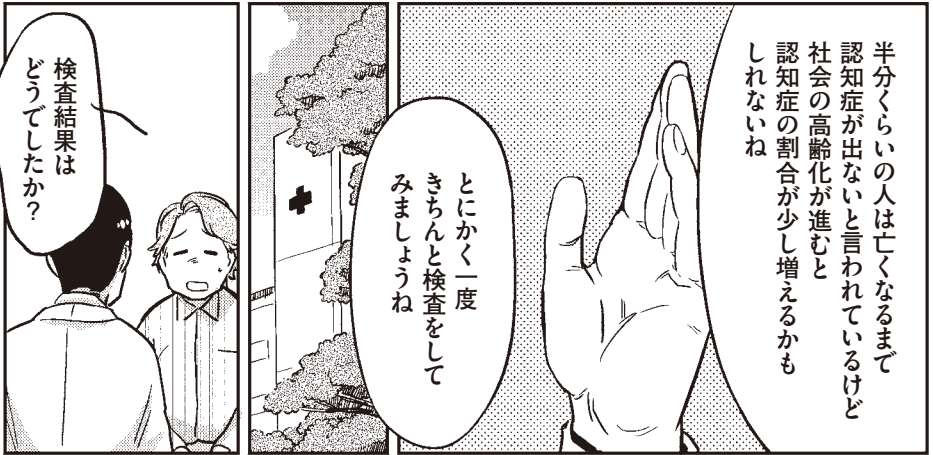
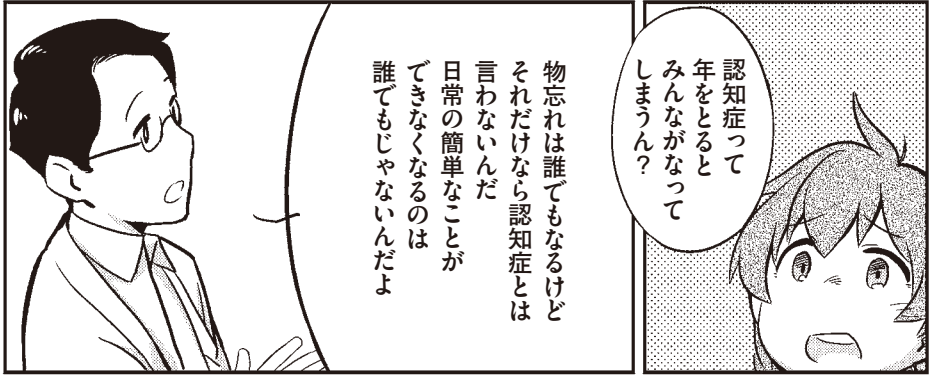


なんかおかしい…

おばあちゃん
どつしたんやろ？
私の誕生日も
忘れるなんて
それに煮物作るの
得意なのに…

ごめんなあ
最近こういうこと
多いですよ！？





本当ですか!?
それは…少し安心
できました

まさか私が
認知症だなんて…

まずは薬を処方
しますね
通院を続けてもらい
ながらケアの担当者
とも連携をとって

ご自身やご家族に
必要な支援の方法を
考えていきましょう

私たちのことを
忘れてりしない?

大丈夫だよ!
しっかりと記憶に残って
いることは簡単には
忘れてりしないよ

いくつかの認知機能障害
をおこしただけで
おばあちゃんは何も
変わってないよ

そっかあ
よかった
私に何かできる
ことはある?

ちゃんと目を見て
たくさん話しかけてあげてね
笑顔を忘れずに!
話すときはゆっくりと
聞くときはじっくりとね
重要なことは
目に付くところに
メモしておいてあげてね

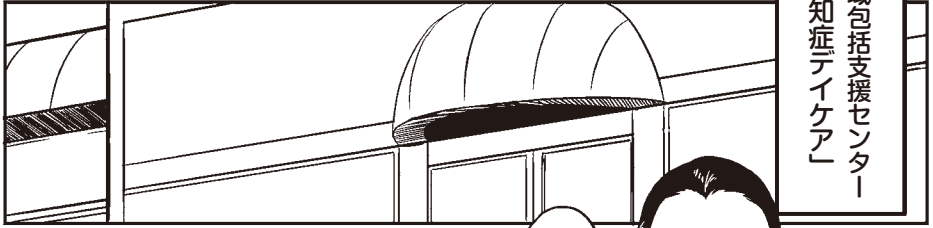
それなら私にも
できるわ!
一緒にがんばらな!

決ってご家族だけで
抱え込まないで
くださいな

地域でケアを進める
『地域包括支援センター』や
認知症専用のデイサービス
センターとして
専門的なケアの提供を
行っているところも
ありますから

家族と病院、そして
社会が一体となつて
がんばって
いきましょう!

地域包括支援センター
「認知症デイケア」



おはようございます

今日は月末に
開催される
バザーの準備を
進めていきます！



今日
やりたいことの
提案がある人は
いませんか？

あのお

ティッシュケース
作りは
どうでしょう？

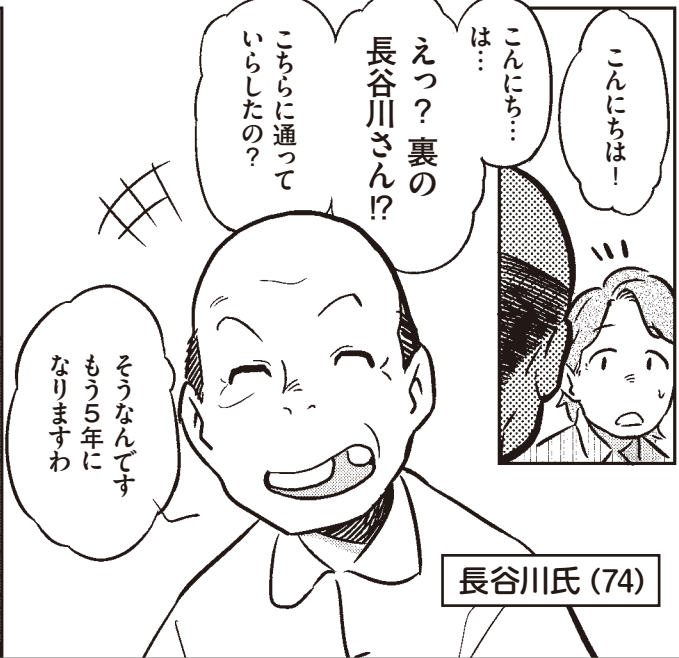
それ、こないだ
奥さんに
プレゼント
しました
よね？

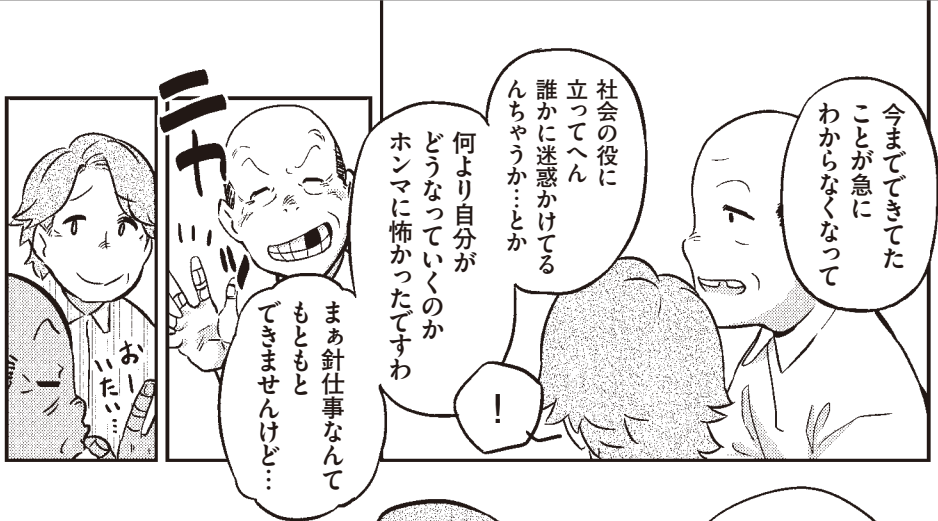


それでは
教材を
配りますね



でも良い意見なので
もう一度ティッシュ
ケース作りを
行いましょう！





今までできてた
ことが急に
わからなくなつて

社会の役に
立つてへん
誰かに迷惑かけてる
んちやうか…とか

何より自分が
どうなつていくのか
ホンマに怖かつたですわ

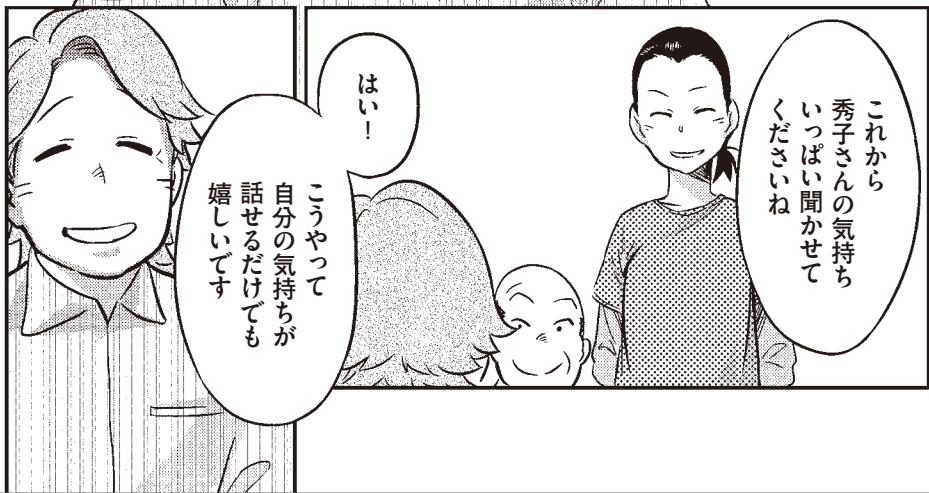
まあ針仕事なんて
もともと
できませんけど…



お
い
たい…

昔は孫たちの浴衣は
みーんな私が縫つていたのに…
こんな簡単な物の作り方が
わからへんなんて…

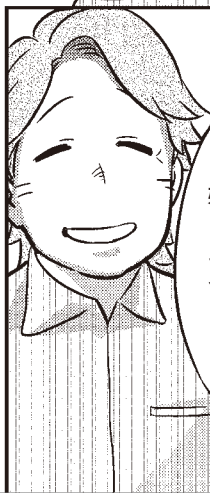
自分が自分でなくなつて
いくように怖いです
本当に認知症なのか…



これから
秀子さんの気持ち
いっぱい聞かせて
くださいね

はい！

こつやつて
自分の気持ちが
話せるだけでも
嬉しいです



お
い
たい…

みんなで一緒に
がんばって
いきましょね

長谷川 妻

おばあちゃんが
笑ってる！
来てよかったね

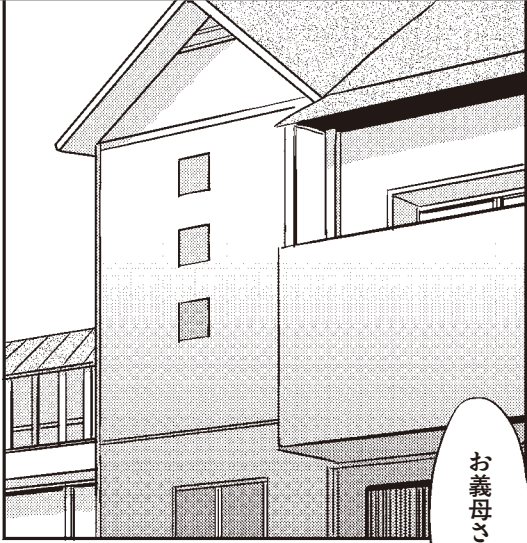
私も夫が認知症と
言われて最初はホンマに
戸惑ったわ
けど、ここでいろんな
人と出会って
一緒にやっていく勇気を
もらったんよ

長谷川さん：
私、母が認知症
なんて：
どうしていいのか？

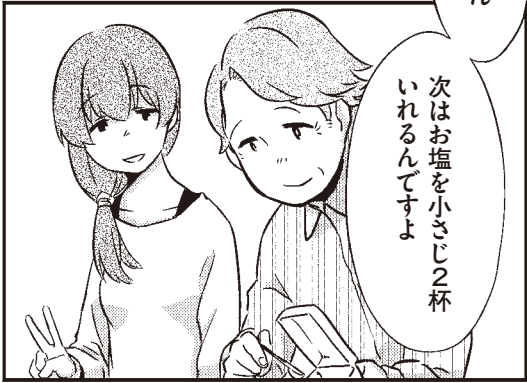
そうだったん
ですね

誰でもみんな
どうなるんか怖い
本人もまわりも…

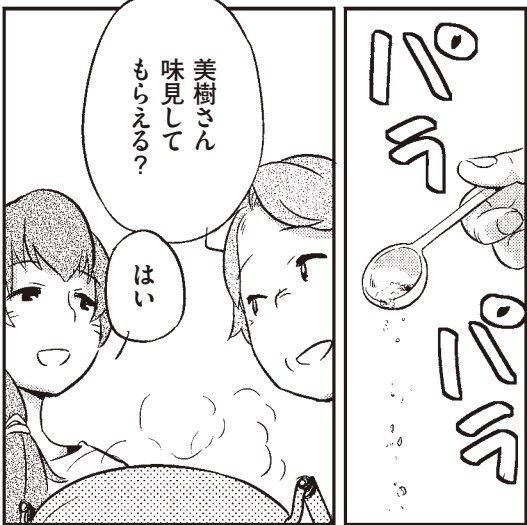
私もこれから
みなさんの力を借りて
じっくりと付き合っ
ていこうと思います
また色々教えてください



お義母さん

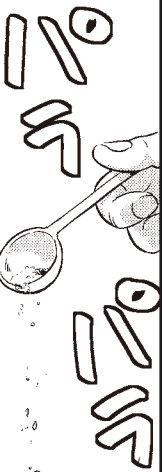


次はお塩を小さじ2杯
いれるんですよ



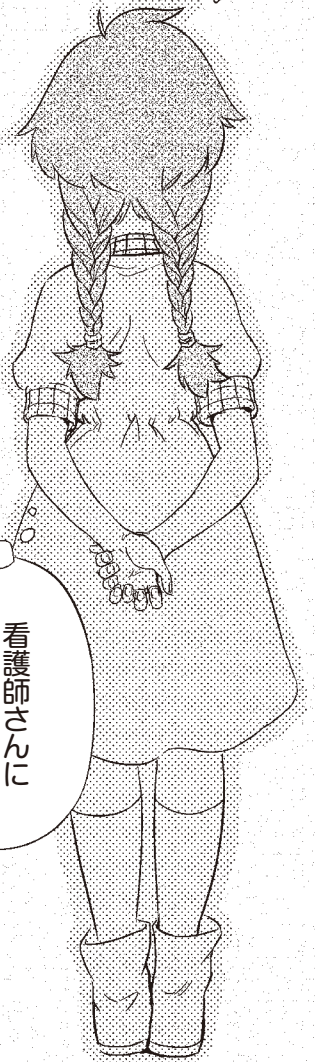
美樹さん
味見して
もらえる？

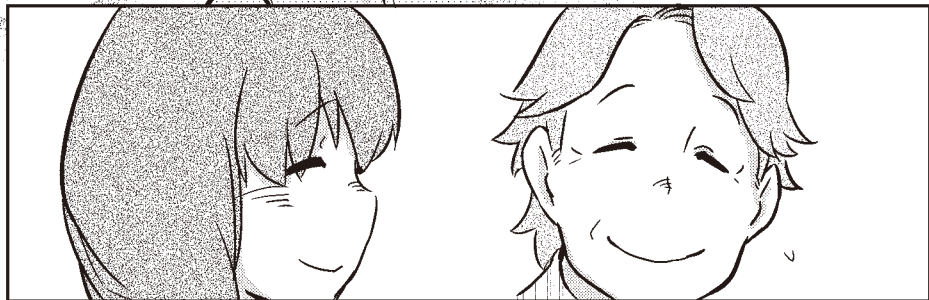
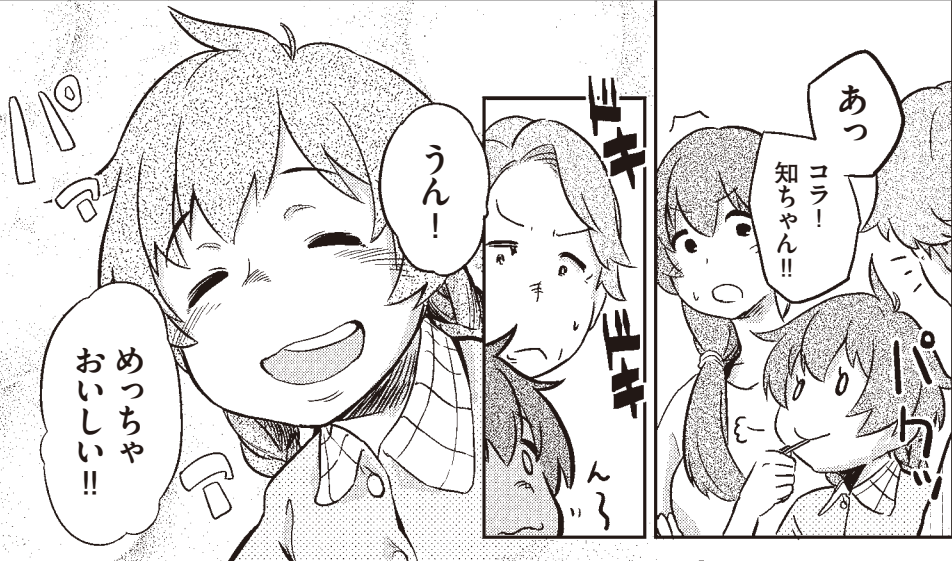
はい



看護師さんに
なりたいな…

私
大きくなったら





おばあちゃんの
認知症ケアは
まだ始まったばかりだけど
これからもおばあちゃんと
ずっと一緒にいたい

家族だけじゃなく
病院や地域の人たちに
協力してもらいながら
少しでも長くおばあちゃん
らしく生きていって欲しい

私もそのお手伝いが
できるようになって
いきたいな

■参考：もの忘れサポートセンター・しが 滋賀県若年性認知症コールセンター <http://www.fujimoto-clinic.net/support/index.htm>

■参考：「いっしょがいいね」 <http://www.isshogaiine.com/>

■参考文献：認知症の医療とケア「もの忘れクリニック」もの忘れカフェ」の挑戦（藤本直規著）

エピソード

あの日から20年、今、私は看護師として認知症の患者さんのケアを専門に働いています。

おばあちゃんは65歳で発症して今も元気です。はじめはどうしても昔のおばあちゃんと比べてしまい、少し戸惑いました。でも時折見せる笑顔は昔のまま、家族みんなを幸せな気持ちにさせる魔法でした。確かに『京都文書』が発表された2012年頃を境に、認知症ケアは変わりました。でも、ケアは一方向的に受けるばかりではありません。最初は私がおばあちゃんの力になろうと思っていたのに、気がついたら私のほうが人を思いやることの大切さを教えられました。認知症の進んだ今でも、おばあちゃんに接しているとほっこりさせられるものがあります。



それは例えていえば、私の好きな『銀河鉄道の夜』でカムパネルラが遠くから聞いたケンタウルス祭りのざわめきでしょうか。おばあちゃんのお祭りを見ることはもうできないけれど、そのお祭りはきっと、おばあちゃんのそのまたおばあちゃんのそのまたおばあちゃんの、そんな今はないふるさとにつながっているのでしょう。私の『お祭り』も、そんな風に次の世代につながっていくんだと思うと、小さなことがあまり気にならなくなります。

〈表1〉 京都式認知症ケアの十箇条 — 2012京都文書より

- 1 現状の課題をしっかりと分析し、それを踏まえたケア
- 2 現実に認知症を病む彼・彼女らの思いを常に忘れず包摂したケア
- 3 入り口問題を意識し焦点をあてたケア
- 4 経済的支援やソーシャルワークを通じて虚弱な家族を支えることができるケア
- 5 今までの生活や人とのつながりを大事にして暮らしを支えるケア
- 6 地域力や専門職連携を充実させ地域から排除される認知症の人を作らないケア
- 7 ハード・ソフト両面からの環境整備を通じて自宅に近い環境を整えたケア
- 8 身体疾患を持っていても必要な医療が受けられるケア
- 9 若年性や初期認知症の人とその家族に対し十分な対応力を持ったケア
- 10 認知症の人にかかわる専門職の待遇を保障するとともに認知症の人を支援する家族に安らぎをもたらすケア

*** 知子ちゃんと先生の ***



Q & A



Q4

認知症が悪くならないよう 私たちにできることって何？

おはあちゃんのように、できるだけ初期の段階で相談すること、理解をして準備をすること。それぞれの家庭に任されていたのを、みんなで支えるような仕組みができたという点で、20世紀は『子どもを発見した世紀』といわれているんだけど、たくさんの人が認知症の医療とケアにかかわっている21世紀は「老人を発見した世紀」といわれるかもしれない。まずは相談だ。



Q5

おはあちゃんがとって 落ち込んでいるように 見えるときがあるんやナド...



おしゃべりや『ごっこ遊び』の最中は楽しいよね。それは、ルールを共有する相手があったりはじめて味わえる楽しさなんだ。認知症になると、それまでうまくできていた親しい人とのルールの共有ができなくなることがある。そんな時は、バカにされたり、仲間はずれにされたような気持ちになりがちなんだ。落ち込んだ気持ちを癒すためには認知症を理解した仲間と過ごす環境が大切になる。家庭もそうだし、地域にもそういう場が必要だね。

Q1

認知症っていくつもあって、 ひとつひとつ違う病気なの？

障害の場所が少しずつ違うんだ。それによって症状も違うから、違うタイプに分類されているんだ。症状を伝える連絡票も違いがわかりやすいようにしてあるよ(表2)。障害を正確に知ることは医療やケアを行う上でとっても大事だからね。ただ、こうした症状はずっと続くわけではないんだ。医療やケアで改善することも多いんだよ。



Q2



ところでケアって何？

障害のある人が少しでも安心して暮らすための手助けをすること。認知症のケアに関しては本人の立場に立ったケアの指針を示した『2012京都市文書』から引用した「京都市認知症ケアの定義十箇条(表1)」を参考にしな。

Q3

これだけ医学が進歩しても どうして原因がわからないの？



脳血管障害は別にして、認知症の人の脳をいくら調べても、老化と区別できるこれはという原因はないんだ。もちろん今は見つからないだけで、いつか見つかって欲しいという希望は持っているけれど、現状では何かのせいとはいえないし、まして誰かのせいであるんじゃないということだね。

もの忘れ連絡シート

〈表2〉

アルツハイマー病様	脳血管性様	レビー小体型様	前頭側頭型様
<input type="checkbox"/> 置き忘れやしまい忘れが増えた <input type="checkbox"/> 大事な約束を忘れる <input type="checkbox"/> 物忘れの自覚がない <input type="checkbox"/> 直前の記憶が抜け落ちる(同じ話を何度もする) <input type="checkbox"/> 感情は保たれているので一見普通に見える <input type="checkbox"/> 財布等を盗まれた等と作り話をする <input type="checkbox"/> 時間や場所がわからなくなる	<input type="checkbox"/> できる事とできない事の差が大きい <input type="checkbox"/> 物忘れの自覚がある <input type="checkbox"/> よく物忘れをするがヒントがあれば思い出す <input type="checkbox"/> 昼夜が逆転している <input type="checkbox"/> 感情の起伏や喜怒哀楽が激しい <input type="checkbox"/> すぐに涙ぐむなどの感情失禁がある <input type="checkbox"/> 反応に時間がかかる <input type="checkbox"/> 何らかの身体症状(麻痺・むせる・しゃべりにくい・歩きにくい)	<input type="checkbox"/> 良い時と悪い時の差が激しい(日内変動) <input type="checkbox"/> ありありとした幻視(人や動物が多い) <input type="checkbox"/> パーキンソン症状 [※] がある <small>※パーキンソン症状とは…小刻み歩行やすくみ足、突進型歩行などの症状を伴うものこと。</small> <input type="checkbox"/> 寝言や睡眠中に叫ぶことが多い <input type="checkbox"/> 以下の何らか <ul style="list-style-type: none"> ●妻や夫が二人いると言う ●天井が歪んで見える ●人の気配を感じる 	<input type="checkbox"/> 性格が別人のように見える <input type="checkbox"/> 万引き等の無頓着な行動がある <input type="checkbox"/> 日に何度も同じコースを徘徊する <input type="checkbox"/> 性的な逸脱行為がある <input type="checkbox"/> 座ったかと思うとすぐに立ち上がることを繰り返す <input type="checkbox"/> 語彙数が減少し、同じ言葉を繰り返す <input type="checkbox"/> 反射的で衝動的な行動がある

(宇治市版の部分を一部改変)

2012年10月13日発行

発行—中京区認知症連携の会
 中京区在宅医療センター
 中京区地域包括支援センター

作画—鵜山はじめ

制作—京都精華大学(京都国際マンガミュージアム)事業推進室
 協力—藤本クリニック・京都市認知症ケアを考えるつどい実行委員会

